

第124回「つくば科学・技術産業イニシアティブ」

(Tsukuba Science and Technology Industry Initiative: TSTI)

(30年7月9日(月))

於：つくば・研究交流センター3階展示室

http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/kouryucenter/005.htm

共催：科学・技術産業イニシアティブ

つくばサイエンスアカデミー

「超高齢化社会先進国・日本と地域の未来、活かし方」
～つくばイノベーションハブとしての共創型研究開発～市場価値形成試み～

テーマ：「機能性農産物の開発研究と機能性表示食品制度の活用」

議 事

I. 18:00 開会

II. 講演と意見交換 18:05～20:00

(1) 講演 18:05～19:30 (質疑10分)

(2) 意見交換 (19:30～20:00)

講師：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

食農ビジネス推進センター長 (筑波大学グローバル教育院教授 (協働大学院))

農学博士、山本(前田)万里先生

(つくばサイエンス・アカデミー企画委員会委員)

概要：我が国では、人口減少と超高齢化が急速に加速するとともに、生活習慣病罹患患者やその予備軍が増加し、医療費は41.5兆円(2015年度)までに増大している。これらの疾患については食生活の乱れや運動不足等に起因するとして、食を巡る健康への問題が大きくクローズアップされている。医食同源という言葉があるように、食品は健康の維持・増進や疾病予防に大きな役割を果たしている。農産物や食品の機能性研究においては、機能性成分の探求、同定、分析、エビデンス獲得、作用メカニズムの解析や機能性成分を多く含む農産物開発が行なわれ、また、多くの機能性食品が生み出されてきた。機能性成分を持った食品としては、植物繊維、ポリフェノール類、カロテノイド類が主要なものである。

健康の維持・増進に関わる機能性成分を含む機能性食品関係のトピックスとして2015年4月1日から事業者が責任を持って行なう自主的な機能性表示を

可能とした新しい制度が発足した。この「機能性表示食品」は事業者の責任で科学的根拠をもとに、食品パッケージに機能性を表示できる届け出食品であり、健康人や未病者の健康維持・増進にかかる「部位表現」も可能となった。農林水産物や低次加工食品の機能性表示も認められているので、農研機構で実施したプロジェクトの研究成果を含めて、今後開発が想定される機能性表示農産物などを紹介、機能性表示食品制度の活用について講演する。

山本先生のミッション

緑茶の機能性、特にメチル化カテキン（べにふうき）の抗アレルギー作用、脂質代謝改善作用、糖代謝改善作用、アントシアニン（サンルージュ）の眼精疲労軽減効果を明らかにし、その作用機序、吸収性、高含有品種、品種の茶葉特性の解明、ヒト介入試験による効果の検証、機能性表示食品の開発や機能性農産物を組み合わせた機能性弁当の健康効果の検証を行っている。企業、大学等と連携して国産農林水産物による健康維持・増進効果を解明し、自らが設計する食生活により自分の健康を維持・増進する「セルフフードプランニングシステム」を確立したい。

プロフィール

1986年 4月 農林水産省農業研究センター入省

1986年 10月 農林水産省中国農業試験場

1992年 4月 農林水産省 野菜・茶業試験場

2012年 10月

(独)農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所 食品機能研究領域長

2015年 4月～2018年 3月 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所 食品機能研究領域長

2015年 5月～現在 筑波大学 グローバル研究院 協働大学院 教授

2018年 4月～現在： 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 食農ビジネス推進センター長

日本茶インストラクター

表彰

- 平成 14(2002)年 日本食品科学工学会奨励賞「動物細胞を用いた緑茶機能性の解明」
- 平成 19(2007)年 世界緑茶協会 O-CHA フロンティア賞産業技術大賞「「べにふうき」茶葉中抗アレルギー成分に関する研究と実用化への取組」
- 平成 25(2013)年 産学官連携功労者表彰農林水産大臣賞「メチル化カテキン高含有「べにふうき」緑茶とそれを利用した外用剤の開発」
- 平成 28(2016)年 日本農芸化学会農芸化学技術賞「健康機能を有する緑茶「べにふうき」の効果、作用機序、茶葉特性の解明ならびに飲食品の開発」
- 平成 28(2016)年 日本食品免疫学会食品免疫産業賞「緑茶の抗アレルギー作用の解明及び応用開発」

- 平成 30(2018)年 日本農学賞、読売農学賞「緑茶の生体機能の解明とその応用に関する研究」